

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 一宮市立末広小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 491-0918

愛知県一宮市末広2丁目20番1号

E-mail suehir-e@city.ichinomiya.aichi.jp

Website http://www.school.city.ichinomiya.aichi.jp/suehir-e/

幼児児童生徒数 男子 343名 女子 228名 合計 571名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「カリキュラムマネジメントによるESD」を活動テーマとして、ESDを学校活動全体で行うものと捉え、ESDの実践を通して主体的に活動する力の育成を目標とした。

具体的には、人権教育、環境教育、福祉教育を柱に、①人権教育に係わる活動、②環境教育に係わる活動、③伝統文化教育に係わる活動、④福祉ボランティア教育に係わる活動を行った。

① 人権教育に係わる活動

学校全体での人権に対するとらえ方を「誰もが生き生きとし学校に笑顔で通う」とした。人権を守るためには何を心がけるべきかを各学級で話し合い、めあてを作成した。12月には、6月に作成しためあてに対する学級の現状と今後の課題を全校に発表した。人権を守るためにできることを一人ひとりが考えることができた。

② 環境教育に係わる活動

学校全体で環境や生命を大切に思う心の育成に努めた。異学年交流として行った「末広ピック」では、環境に負荷をかけない工夫として、ごみをなるべく出さないような遊びを考えて、楽しく異学年交流を行った。また、卒業式に向けて、児童の一人ひとりが、卒業式に飾る鉢植えの花を責任をもって育てることで、植物を慈しむ気持ちと、卒業生への感謝の気持ちをもつことができた。

③ 伝統文化教育に係わる活動

伝統文化教育を行うにあたって、地域から講師を招いた。2年生では、生活科の昔遊びで、地域のご老人を講師として招き、コマやメンコなどの昔遊びを体験した。3年生では、音楽家のリコーダー学習の意欲付けとして、リコーダー演奏家の方に吹き方の指導を頂いた。6年生では、講師を招き、三味線や琴などの伝統芸能を体験することを通して、古くから続く日本の伝統文化への理解を深めた。

④ 福祉ボランティア教育に係わる活動

学校行事で、分け隔てなく特別支援学級の同学年・異学年の児童と交流することで、お互いを尊重し、理解に努めようとする態度を身につけることができた。福祉実践教室では、ブラインドウォークや車いす体験、点字体験を行い、バリアフリーやボランティアについて考えることができた。エコキャップ運動では児童会が中心となって全校に呼びかけ、発展途上国の経済的な助けになるように、ペットボトルのキャップを集めてワクチンを寄付する活動を行った。



① 人権教育に係わる活動



② 環境教育に係わる活動



③ 伝統文化教育に係わる活動



④ 福祉ボランティア教育に係わる活動

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他 (地域学習・福祉学習)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他 (自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他 (自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

思いだしてごらん

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとしての活動を以下のように位置づけた。

- ・ 特別活動…国際交流、人権集会、卒業式に向けての一人一鉢栽培活動
- ・ 総合的な学習の時間…福祉実践教室、老人福祉施設訪問
- ・ 理科…ごみ処理場見学、飼育栽培、グリーンカーテン
- ・ 音楽…リコーダー名人、いろはに邦楽
- ・ 生活科…昔遊び、まちたんけん、スーパーマーケット見学
- ・ 児童会活動…異学年交流「末広ピック」、エコキャップ運動

年度末に学校全体でカリキュラムマネジメントを行い、改善点等を示し、次年度への活動を計画していく予定である。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌を適切に定め、複数の職員で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制を設定した。また、年度ごとに反省を行い、文章で次年度の担当者に申し送りを行っている。そうすることで、円滑に業務が遂行されている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

教員一人一人は、「年度末反省と次年度にむけて」という用紙に、反省と課題・改善策を記入し、さらに校務分掌部会を執り行うことで、業務の精選と質の向上をはかっている。

関係者評価として、年度末に保護者と学校運営協議会に学校評価を依頼し結果を分析している。その結果から、今年度の反省と次年度の活動への改善点をまとめている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

エコキャップ運動として行っているエコキャップを分別・回収することでワクチンにかえ、ワクチンが世界中の子どもたちに使われている。また、使用済み切手も回収しており、同様に世界中の子どもたちの命を救っている。また、日本肢体不自由児協会の絵はがき等の申し込みをしている。この活動で得られたお金は、肢体不自由高校生への奨学金の支給にあてられている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

「エコキャップ運動」では、リサイクル業者の株式会社大久保東海と提携し、エコキャップの分別・回収を行っている。

「福祉実践教室」や「使用済み切手回収」では、愛知県社会福祉協議会と連携し、福祉体験や使用済み切手の回収を行っている。

「手足の不自由な子どもを育てる運動」では、日本肢体不自由児協会と連携し、絵はがき等の販売を行っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクール指導者交流会の報告書をもとに、全職員に広くユネスコスクールでの活動を報告することで、職員間の理解を深めた。また、他の学校のユネスコスクール担当者との意見交換等を行い、活動の見直し等を行っている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

カリキュラムマネジメントを行い、ユネスコスクール活動を実施した。それによって、子どもの育成すべき力を職員間で改めて認識することができた。また、適切な時期に適切な活動を行ったことで、児童のやる気も引き出した。その結果学校評価アンケートでは、保護者からユネスコスクール活動に肯定的な意見が多く見受けられた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度はユネスコスクールの認定の解除を希望するが、以下の活動について、継続して取り組んでいく。

- 4月 ちょボラ運動
- 5月 エコキャップ運動
- 6月 国際交流、まちたんけん
- 7月 グリーンカーテン、老人福祉施設訪問
- 9月 スーパーマーケット見学
- 10月 親子ぴかぴか大作戦
- 11月 ごみ処理場見学、
- 12月 人権集会、昔遊び
- 1月 いろはに邦楽
- 2月 異学年交流「末広ピック」
- 3月 使用済み切手回収